

# 第 10 回 ATEM 北海道支部大会

2022 年 3 月 5 日（土）（支部 ID 1 ルーム）

テーマ「ダイバーシティと映像メディア」

## プログラム ※1 枠に質疑応答および入替時間を含みます

時間		発表者・タイトル
9:45	開室	開会のことば（北海道支部長）
10:00-11:00	支部横断 シンポジウム (九州支部・ 東日本支部)	英文学翻案から読み解く多様性 —ミレンとシェイクスピアの事例から— 司会：北海道支部長 吉村圭（九州女子大学） Heffalumpに見る「よその」へのまなざし：Winnie-the-Pooh原作・映画比較 小泉勇人（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院） もしも彼女がエチオピア人だとしても—Much Ado About Nothing映画版における 台詞の編集と演出—
11:00-11:30	発表 1 (北海道支部)	田口雅子（とわの森三愛高等学校） 映画を使用した人種差別に関する授業実践
11:30-12:00	発表 2 (北海道支部)	河上昌志（札幌市立柏中学校） 英語と日本語の差異に気づかせる方法～「カムカムエブリバディ」を利用した授業実践～
12:00-12:20	支部総会	会計報告・運営委員・活動報告および計画承認（支部会員対象）
12:20-13:00	ランチブレイク	<北海道支部10周年スライドショー>
13:00-13:30	発表 3 (北海道支部)	松田愛子（北海道大学） なぜ女王は男言葉を話すのか—映画・ドラマ・翻訳とD&Iはじめの一歩
13:30-14:00	交流発表 (西日本支部)	藤枝善之（同志社大学） 英語圏映画の名字幕を味わう
14:00-14:30	発表 4 (北海道支部)	遠藤みお（藤女子高等学校） 映像・字幕の世界に見られる多様性の受容
14:30-15:30	特別発表 (北海道支部)	西義一・千坂直人・平川亮 We can work it out and Blow away the age!
15:30-16:00	発表 5 (北海道支部)	佐藤亜美（名古屋商科大学） “My English is not very good” に関する一考察：映画に見られる自己卑下の対人関係機能に注目して
16:00-16:30	発表 6 (北海道支部)	斉藤巧弥（北海道大学） 英語教育と多様性：クエアの視点から
16:30	閉会	閉会のことば

※閉会後に情報交換会を行います（30分程度を予定）

## 発表要旨

---

### ◆ 支部横断シンポジウム

#### 「英文学翻案から読み解く多様性—ミルンとシェイクスピアの事例から—」

本シンポジウムは英文学の原作と映画の関係を巡り、〈他者〉表象を議論したい。

吉村は Winnie-the-Pooh の原作と映画から、象 Heffalump の「よそのもの」としての描かれ方を比較する。また小泉はシェイクスピア喜劇 Much Ado About Nothing の二つの映画版(1993, 2012)を比較し、他者を巡る台詞の演出方法を議論する。

#### シンポジウム発表1

**吉村 圭** (よしむら けい)

九州支部

九州女子大学

#### Heffalump に見る「よそのもの」へのまなざし : Winnie-the-Pooh 原作・映画比較

金子 (2011) は、Winnie-the-Pooh に登場する象の Heffalump をアフリカやアジアなどの旧植民地を表象する存在と捉え、作品から帝国主義的意識を見出す取り組みを行っている。その中で金子は、100 エーカーの森では Tigger、Kanga、Roo など本来「欧州に生息していない」動物がきちんと「他所からやってきた新参者」として描かれているという、興味深い指摘をしている (65)。つまり、動物たちの実際の生息地が物語に反映されており、非ヨーロッパ的動物は「よそのもの」として描かれているのである。本発表では同様に「よそのもの」として描かれる Heffalump に着目し、原作とディズニー映画における描写の比較を行う。

#### シンポジウム発表2

**小泉 勇人** (こいずみ ゆうと)

東日本支部

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院

#### 「もしも彼女がエチオピア人だとしても」— Much Ado About Nothing 映画版における台詞の編集と演出—

シェイクスピア劇の言葉には、社会的性差の問題や人種差別的な観点から「賞味期限切れ」を起こしているものも多い。そういった台詞は現代の翻案(舞台上演や映画化)では削除や改変が施されるものの、翻案ごとの手法は同一戯曲であっても多様である。本発表では喜劇『空騒ぎ』(Much Ado About Nothing)の二つの映画版— Kenneth Branagh 監督版 (1993)と Joss Whedon 監督版(2012)—における人種差別的な台詞を巡り、シェイクスピア劇の映画化に生じる台詞編集と演出手法を指摘し、古典戯曲の現代的/映画的アップデート方法を議論したい。

### ■ 一般発表等

#### ○発表1

**田口 雅子** (たぐち まさこ)

北海道支部

酪農学園大学付属とわの森三愛高等学校

#### 映画を使用した人種差別に関する授業実践

近年、生徒との会話や生徒同士を通して、彼らの中で LGBT をはじめとするマイノリティに対して関心が高まっていると感じるようになった。漠然とした生徒たちの興味関心や、具体的に自分たちはどうすべきなのかという疑問に答えるため、教科書の単元と連動して、黒人差別に関する映画の鑑賞、字幕の分析、感想のスピーチ化と単元学習を一連の流れとした授業実践を行な

った。映画『タイタズを忘れない』を同じ高校生の立場から彼らはどう観たか、また高校生・アメフト・人種差別という共通の題材を扱った『しあわせの隠れ場所』を観て時代的な変化をどう捉えたか。高校生たちのリアルな感覚をご紹介したい。

#### ○発表 2

**河上 昌志** (かわかみ まさし)

北海道支部

札幌市立柏中学校

#### **英語と日本語の差異に気づかせる方法 ～**

#### **「カムカムエブリバディ」を利用した授業実践～**

NHK 連続テレビ小説「カムカムエブリバディ」を授業で使って、英語と日本語の違い、例えば、日本語にない「a と the の違い」や、「英語と日本語の文構造の違い」などを、気づかせる実践を報告する。番組では、日本語のあとに英語が示される場合が多く、生徒にはその差異が、それほど難しくなく理解できることがわかった。

#### ○発表 3

**松田 愛子** (まつだ あいこ)

北海道支部

北海道大学

#### **なぜ女王は男言葉を話すのか—映画・ドラマ・翻訳と D&I はじめの一歩**

カラーブラインドキャスティング、ホワイトウォッシング、ホワイトセイバー・・・映画やドラマを語るうえで知っておきたいダイバーシティ関連用語を整理するとともに、日本語学者の金水敏氏が提唱した「役割語」を参考に、翻訳におけるバイアスを考える。

#### ●交流発表

**藤枝 善之** (ふじえ よしゆき)

西日本支部

同志社大学

#### **英語圏映画の名字幕を味わう**

ハリウッド映画を中心とする英語圏の映画（洋画）は、日本人の精神の一部を形成するものであるが、その「洋画」を我々は 99.9%字幕を通して鑑賞し、理解する。つまり日本人にとって、洋画のセリフとは日本語字幕であり、洋画の名セリフとは名字幕のことなのだ。その意味で、字幕翻訳者の果たす役割は極めて大きいと言える。この発表では、名作映画の字幕のいくつかを楽しみながら、翻訳者の技と工夫の跡を検証したい。

#### ○発表 4

**遠藤 みお** (えんどう みお)

北海道支部

藤女子高等学校

#### **映像・字幕の世界に見られる多様性の受容**

多様性という言葉から、まず「人種」または「性別」を思い浮かべる人は多いのではないだろうか。しかし、多様性とは「幅広く性質の異なる群が存在するということ」であると考え、その対象は人種や性別だけにとどまらないはずである。障害、嗜好、年齢層、さらには育ってきた生活環境など、多様性という言葉は多岐に行きわたる。本発表では、映画の字幕表現について解説しながら、字幕の中に感じられる多様性の受容を考察する。

#### ●特別発表

**西 義一**(にし よしかず)

**千坂 直人**(ちさか なおと)

**平川 亮**(ひらかわ りょう)

北海道支部

## **We can work it out and Blow away the age!**

The title "We can work it out and Blow away the age " means you can do it if you try.

We are getting older, but we believe that we can do many things if we are motivated.

When we get old, people sometimes think we can't do anything anymore.

But we want to tell people that if we are motivated, we can do somethings.

We would like to make this presentation so that people can feel that way.

### ○発表 5

**佐藤 亜美** (さとう あみ)

北海道支部

名古屋商科大学

## **“My English is not very good” に関する一考察：映画に見られる自己卑下の対人関係機能に注目して**

英語が共通語として使用されるオンラインコミュニティにおいて、非英語母語話者が自身の英語能力を自己卑下 (self-deprecation) することが報告されている (Barton and Lee 2013)。自分の英語を多様な英語の一つであると認めず、過小評価を示すのはなぜだろうか。この問いを探求するため、本研究ではどのような対面場面で英語能力に関する自己卑下が行われるかを、映画の会話を分析することで調査した。The Movie Corpus を用いて、“My English [is bad/not good etc.]” の表現を含む自己卑下の台詞を分析したところ、対人関係調節のストラテジーとして使用されているこ

とがわかった。

### ○発表 6

**齊藤 巧弥** (さいとう たくや)

北海道支部

北海道大学

## **英語教育と多様性：クィアの視点から**

本発表では、クィアの視点を用いた英語教育の議論や実践について概観し、ジェンダーやセクシュアリティについて教える／配慮する授業のあり方について考察をする。またそうした授業において映像メディアを用いる可能性についても考察する。

20220301 版